第111回 奈良医学会記事

平成2年10月30日（火）
於奈良医大第1臨床講義室

特別講演 I

日本における食品由来の寄生虫病の現況

奈良医大寄生虫学教室
荒木　恒治

近年日本国内では，過去の寄生虫病と変わり獣肉，鳥肉，魚肉その他爬虫類ヘビ，両生類カエルなどの生食の嗜好，いわゆるグルメ呼ばわりのゲテモノ志向が激増し，今迄考えられなかった寄生虫の食品を介してヒトへの感染が目立って来た．その特徴は，脊椎動物との関連において人畜共通寄生虫病，さらに成虫とならず幼虫のままでヒト体内に生存し，所謂幼虫移行症（larva migrans）が重要視されて来た．これらの問題を中心に日本の寄生虫病の現況と，その診断・治療について話したい．

1) コリン欠乏アミノ酸食によるラット肝前癌病変発生における酸化性ストレスの関与

奈良医大附属がんセンター腫瘍病理学教室
吉治　仁志，中江　　大，丸山　博司
伝田阿由美，堤　　雅弘，衣笠　哲雄
小西　陽一

コリン欠乏アミノ酸（CDAA）食は，コリン欠乏（CD）食の蛋白質を純アミノ酸でdefineしたものである．我々は，5週齢の雄Fischer 344系ラットにCDAA食を12週間投与し，肝前癌病変誘発における酸化性ストレスの関与について検索した．その結果，CDAA食の12週肝投与は，ラット肝にγ-glutamyltransferase及びglutathione S-transferase placental form陽性のphenotypeを示す過形成性結節を発生せしめ，同時に肝脂質過酸化反応を誘発すると共に，酸化性DNA障害の指標である8-hydroxydeoxyuguanosineを生成せしめた．以上の結果より，CDAA食によるラット肝発癌の機序に酸化性ストレスの関与することが示唆された．

2) ラット腹水骨肉腫継代株の細胞特性に関する研究

奈良医大整形外科学教室
朴木　寛弥，宮内　義純，三井　宜夫
玉井　　進
奈良医大附属がんセンター腫瘍病理学教室
堤　　雅弘，丸山　博司，辻内　俊文
小西　陽一
奈良医大公衆衛生学教室
土肥　祥子

私たちは，過去に自然発生型骨肉腫（S-OS）及び4-HAQO誘発骨肉腫（C-OS）の2系のラット骨肉腫継代株を報告してきましたが，今回S-OSより腹水変換株A-OSが樹立されたので報告します．本腫瘍株はS-OS第35代腫瘍より生じた腹水を次代ラット腹腔内に継代する事により樹立され，腹腔内及び背部皮下にて旺盛な増殖能を示しております．さらに静脈内及び動脈内に投与することにより肺転移及び骨転移巣を形成することが確認されており，今後骨肉腫細胞の分化や転移といった細胞動態の研究に有用なものと考えます．

3) ヒト末梢血液中Natural Killer細胞の分化とIL-2レセプターβ鎖（p75）の発現

奈良医大第2内科学教室
森井　武志，西川　　潔，成田　亘啓
奈良医大産婦人科学教室
斎藤　　滋，加藤由美子，一條　元彦

今回我々はインターロイキン2受容体β鎖（IL-2Rβ）に対するモノクローナル抗体（TU-27）を用い，NK細胞サブセット上におけるβ鎖の発現を量的に同定した．成人末梢血中NKサブセット上のβ鎖の発現レベルは$CD3^-CD16^-CD56^{bright+}$NK細胞（immature NK）＞$CD16^+CD57^-$NK細胞（mature NK）＞$CD16^+CD57^+$NK細胞（more mature NK）であり，臍帯血$CD16^+$NK細胞では成人末梢血に比べ有意に高かった．β鎖の発現とNK細胞の分化は逆相関しておりβ鎖はNK細胞の分化成熟において重要な役割を演じている可能性が示唆された．

4) 嗅球ニューロンの化学および機械応答と嗅球神経回路

奈良医大第1生理学教室
小川　陽一，元木澤文昭

嗅球ニューロンは，鼻腔内に送入された臭気だけでなく純空気にも反応して，インパルスの発火頻度を増減する．一方嗅球を構成する各種のニューロンを結合する神経回路が，解剖学や電気生理学的方法などによって，かなりくわしく描かれている．今研究では，ウレタン－クロラロース麻酔下のネコについて，臭気や純空気に対する嗅球ニューロンの応答が，ある一定の条件を設定すれ

ば，現在の嗅球神経回路で説明できることがわかった．

5) 中大脳動脈反復クリッピングの脳ならびに脳血管反応性に及ぼす影響

奈良医大第2外科学教室
西谷　昌也，石田　泰史，笹岡　保典
森本　哲也，下村　隆英，榊　寿右

Temporary clipping は脳神経外科領域における手術操作上極めて有用な手段だが，時として脳虚血を来たす場合がある．我々は一時虚血の反復が脳に及ぼす影響について検討した．

成猫を用い，ectosylvian gyrus 上に cranial window を設け経眼窩的に中大脳動脈を露出，これに temporary clipping を様々な間隔で施行し，経時的脳表血管の反応性，BBB の障害，脳梗塞の程度につき検討を加え，いくつかの知見を得たので報告する．

6) 微小血管におけるY字型グラフトの臨床応用の検討　—ラット頸動脈分岐部再建—

奈良医大第2外科学教室
森本　哲也，榊　寿右，辻本正三郎
川田　和弘，藤岡　政行，金　永進
宮嵜　章宏

頭蓋内圧血行再建において一本の中枢側から二本の末梢側への血行再建を要することがあるが，これに適したグラフトはない．ラットでY字型グラフトを頸動脈再建に用い検討した．3週間追跡し，グラフトの開存，グラフト壁の光顕的変化，グラフト内腔の電顕的変化を観察した．グラフト壁は intimal hyperplasia を示し，特に静脈グラフトに著しい．多くのラットの吻合部に仮性動脈瘤を認め，これが今後の問題点と思われた．

招待講演

私の野球人生

朝日放送プロ野球解説者
皆川　睦男

特別講演　II

HTLV-I レトロウイルス感染症とその対策

奈良医大産婦人科学教室
一條　元彦

HTLV-I は他国に比し，特に本邦にキャリアが集積している．HTLV-I が起因して発症する ATL（成人T細胞白血病）は極めて予後不良であり，また他の HTLV-I 疾患 HAM, HAB, HABA, HAAP なども難治性である．HTLV-I は輸血感染，精液感染，胎内感染，母乳感染により伝播するが，特に後3者は我々の研究により明らかにされた．母乳感染を防止するには人工乳もしくは−20℃12時間凍結処理母乳で哺育すればよい．これら感染の将来像をシュミレートして対策を立てた．

7) 当科における脊椎麻酔後頭痛の治療について

奈良医大麻酔科学教室
橋爪　圭司，山上　裕章，住田　剛
奥田　孝雄

脊椎麻酔は日常頻用される麻酔法であるが，その合併症として，脊椎麻酔後頭痛が10〜20％程度発症する．これは硬膜の穿刺孔から，持続的に脳脊髄液が流失するために発症する，低髄圧性頭痛である．当科ではこの3年間で計10名（脊椎麻酔後頭痛9名，検査目的の腰椎穿刺後頭痛1名）の診療をおこなった．その治療方針等について若干の文献的考察を加えて紹介する．

8) 当院麻酔科外来ペインクリニックの現状（1988年，1989年の統計的検討）

奈良医大麻酔科学教室
住田　剛，山上　裕章，橋爪　圭司
奥田　孝雄

麻酔科外来は1986年に開設され，1988年より診療体制も調いはじめ，神経ブロック法を中心とする外来診療が本格的に開始された．そこで，麻酔外来の過去2年間（1988年，1989年）の動向を統計的に調査したので報告する．また，施行した神経ブロック治療法を中心に考察をくわえる．

9) 脊髄小脳変性症における脳幹機能の検討

奈良医大神経内科学教室
小西　敏彦，真野　行生，高柳　哲也

脊髄小脳変性症における脳幹機能を検討する目的で，SCD63例〔遺伝性オリーブ橋小脳萎縮症（Menzel 型）13例，オリーブ橋小脳萎縮症（孤発型）26例，遺伝性小脳皮質萎縮症（Holmes 型）5例，晩発性小脳皮質萎縮症（孤発型）19例〕の聴性脳幹誘発電位（BAEP），瞬目反射（BR）を記録した．また画像上での脳幹萎縮の程度と BAEP, BR との関係についても検討を行った．脳幹萎縮の程度と BAEP，BR 異常との間に有意な相関が認められた．

10) メチシリン耐性黄色ブドウ球菌（MRSA）の検出状況および院内感染防止対策について

奈良医大附属病院中央臨床検査部
増谷　喬之，間瀬　忠，中野　博
奈良医大第2内科学教室
三笠　桂一，澤木　政好，成田　亘啓

MRSA は，本邦において1981年頃より各種臨床材料より検出されるようになってきた．このことは第三世代セフェム剤の登場と密接な関係があり年々増加傾向にある．本菌は，有効抗菌薬が極めて少なく発症すると治療

困難となるため，臨床上また院内感染防止対策上においても大きな問題となっている．

今回我々は，MRSA の判定基準と近畿圏，および当院の検出状況について，また院内感染防止対策について検討した結果，若干の知見を得たのでその成績を報告する．

11）潰瘍性大腸炎の外科治療

奈良医大第１外科学教室
佐道　三郎，藤井　久男，山本　克彦
渡邊　　巌，安田　慎治，仲川　昌之
中野　博重

奈良医大第１外科において経験した潰瘍性大腸炎症例のうち，外科的治療を行った症例につき手術適応について考察した．その結果罹患範囲については全大腸炎型がほとんどであった．重症度別にみると緊急，準緊急手術となったのは重症型が多く，待期手術では再燃を繰り返すといった中等症の症例が多かった．さらに待期手術の場合，病悩期間のうち入院期間の占める率が高い結果を得た．

The Nara Medical Association
——111th Meeting——
(October 30, 1990)

SPECIAL LECTURE I

Present state of the parasitir disease transmitted from the foods in Japan

Department of Parasistology, Nara Medical University
Tsuneji ARAKI

1) **Possible participation of oxidative stress in the mechanisms of the induction of putative preneoplastic lesions by choline deficient L-amino acid defined diet in rats**

Department of Oncological Pathology, Cancer Center, Nara Medical University
Hitoshi YOSHIJI, Dai NAKAE, Hiroshi MARUYAMA, Ayumi DENDA, Masahiro TSUTSUMI, Tetsuo KINUGASA and Yoichi KONISHI

2) **Experimental study on ascites form osteosarcoma in rats**

Department of Orthopedic Surgery, Nara Medical University
Kanya HONOKI, Yoshizumi MIYAUCHI, Yoshio MII and Susumu TAMAI
Department of Oncological Pathology, Cancer Center, Nara Medical University
Masahiro TSUTSUMI, Hiroshi MARUYAMA, Toshifumi TSUJIUCHI and Yoichi KONISHI
Department of Public Health, Nara Medical University
Yoshiko DOHI

3) **Differential expression of the interleukin 2 receptor β (p75) chain on human peripheral blood natural killer subsets**

2nd Department of Internal Medicine, Nara Medical University
Takeshi MORII, Kiyoshi NISHIKAWA and Nobuhiro NARITA
Department of Obstetrics and Gynecology, Nara Medical University
Shigeru SAITO, Yumiko KATO and Motohiko ICHIJO

4) **Chemo-and mechano-response of olfactory bulb neurons and neural circuit of the olfactory bulb**

Department of Physiology, Nara Medical University
Yoichi OGAWA and Fumiaki MOTOKIZAWA

5) **Effect of the repeated clipping on the brain and cerebral arterial reactivities**

2nd Department of Surgery, Nara Medical University
Masaya NISHITANI, Yasuhito ISHIDA, Yasunori SASAOKA, Tetsuya MORIMOTO, Takahide SHIMOMURA and Toshisuke SAKAKI

6) **A study on clinical usefulness of Y shaped graft**

—reconstruction for carotid bifurcation—

2nd Department of Surgery, Nara Medical University

Tetsuya MORIMOTO, Toshisuke SAKAKI, Shozaburo TSUJIMOTO, Kazuhiro KAWATA, Masayuki FUJIOKA, Eisin KIM and Akihiro MIYAZAKI

SPECIAL LECTURE II

In fection of HTLV-I retrovirus and its control

Department of Obstetrics and Gynecology, Nara Medical University

Motohiko ICHIJO

7) **Treatment of post-spinal headache**

Department of Anesthesiology (pain-clinic), Nara Medical University

Keiji HASHIZUME, Hiroaki YAMAGAMI, Takeshi SUMIDA and Takao OKUDA

8) **Aspects of pain clinic activity at Nara Medical University, department of anesthesiology**

Department of Anesthesiology (pain-clinic), Nara Medical University

Takeshi SUMIDA, Hiroaki YAMAGAMI, Keiji HASHIZUME and Takao OKUDA

9) **Study of the brainstem function in spinocerebellar degeneration**

Department of Neurology, Nara Medical University

Toshihiko KONISHI, Yukio MANO and Tetsuya TAKAYANAGI

10) **Isolation and prevalence of Methichillin-Resistant Staphylococcus Aureus (MRSA): Strategy for hospital acquired MRSA infection**

Division of Central Clinical Laboratory, Nara Medical University

Takayuki MASUTANI, Tadashi MASE and Hiroshi NAKANO

2nd Department of Internal Medicine, Nara Medical University

Keiichi MIKASA, Masayoshi SAWAKI and Nobuhiro NARITA

11) **Surgical therapy for ulcerative colitis**

Ist Department of Surgery, Nara Medical University

Saburo SADO, Hisao FUJII, Katsuhiko YAMAMOTO, Iwao WATANABE, Shinji YASUDA, Masayuki NAKAGAWA and Hiroshige NAKANO